

リスクライド

RISKRIDE

苦難の
果てに—

Beyond
the threshold
of pain

画 ケリー 篠沢 原案 Dr. アンディ 美湖



苦しみは いつも突然
やってくる

それがどれだけ深いか？
どこまで引きずり込まれるか
誰も分からない……

全ての希望が
絶たれた時
自分はどうすれば……？













まあ、いいか…
約束破って
死ぬのも嫌だし
一走りして…

なんかさ
タミヤを
実写版と合
た

ちゃんと
バイク
磨いとけよ!!

湘南行くぞ
湘南!!

次の日にすれば
いいんだ…

次の日に



本当は
あんなにか
いらなかったの…



サチ…





友は
やってる

いや
マジ
うれし
いぜ



マジでお前と
来たかたからさ
持つべき者は
友って
よく言った
な!!

まあ
お前にもう一度
バイクの乗り方
教えとこうって
思ってた
ところだ!!



それにするとは
もつできない

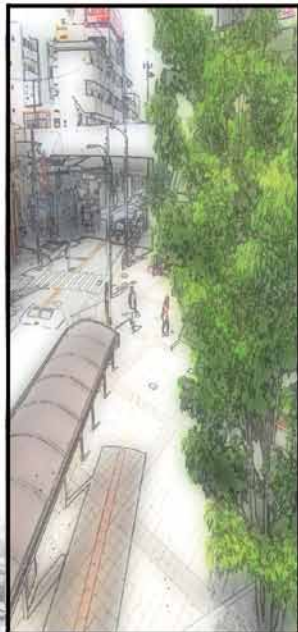
しかし不安と向き合い
人を信じて

絶望の中の
祈りが応えられたかのように...

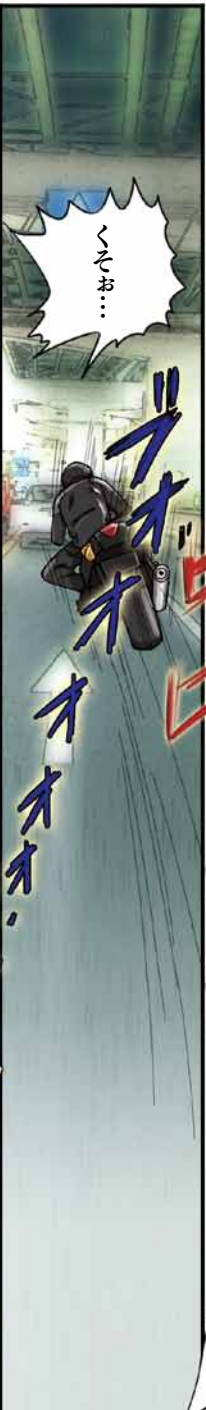


もっと
楽になれるだろうに...

いっそ昔のように
なれたら...



よく来て
くれたなーッ



くそお...



あたたかみか...

ウソウソウソウ





俺、なんて
言っちゃって
やったら
いいんだ？
そいつは…



考えても
みろよ

ちよー
気味悪いぜ
きつと何百もの
死体がよう、森の
奥深くで腐ってんだぜ



ザアーン



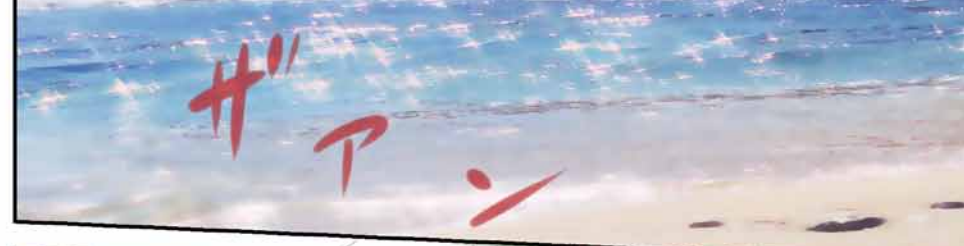
なんでそんな
場所に行き
たがるんだ？

苦しみ
だよ！



苦しみに
決まっ
てんだろ！！

おい



でもその
質問の前に
聞いて
もらいてー
こと
あつてよ

オイオイ
手短に
頼むぜ



まあ
ちよつとよ
ゲームだと思つて
つきあえよ！



実はさー
前から
お前に
聞きてーなあ…
つて思つてたこと
あんだ

なんだよ
あらたまつて



実はな
知つてる
やつがさ

樹海に
行つて
命絶とうと
してるんだ



「もう君は
必要ないよ」...



簡単にさ



俺はどこに
行ったら
いいんだよ

うっ...



サチには
隠せなかった

かっこ悪いのは
分かってたけど
心のどこかでなぐさめを
期待してた...

紙くずみたいに
捨てられたんだよ
ちくしょう



確かに最近うまくいって
なかったけどよ

よりにもよって
そんな時に



本当は
あんたなんて
いらなかったの



あいつは
そのまま
振りかえりも
せずに
俺を残して
去っていったんだ

俺を残して...



...



2回も
フラれ
ちまった



サチにも

会社にも!
全部!!



ほら
メット

一緒に
走ろうぜ!



俺は
ひとりだ...



お前は
ひとり
じゃない!

ひとり
じゃない!

ひとり
なんかじゃ
ねーよ...



まだ質問
終わって
ねーけど
ちよっと
後にすっか...











うう…

うう…
うう…



ゴーン
ゴーン



はっ



覚えていない…
ひどい事
だったのに…

…

その
傷は…



う…

ううう

か…
母さん…



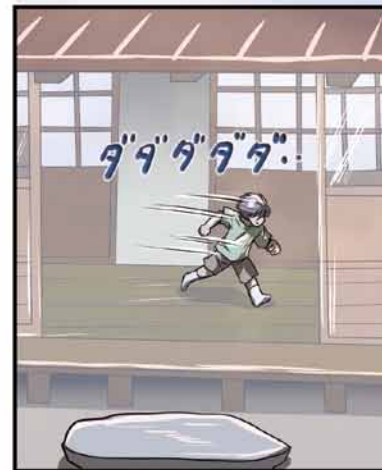
あなた
なんて!
産むんじゃ
なかった

大丈夫?



いらなかった
のよ!!

本当は
あなた
なんて



ダダダダダ



ミーン
ミーン
ミーン
ミーン



ほあ
ほあ
ほあ

…



お前と
同じような
もんを心に…
とかさ!

誰だつてさ
そーゆーもん
もつてんの
かもな

あんま
目立たねー
だけでさ



まだ
最後の質問
聞いてない
けどさ

ちょっと
猶予
あたえて
やるよ!



おい、あと
一カ所だけ
行きてえんだ
つきあうよな!



…



俺で
あるために
ここになくちゃ
いけない
ような…

不思議なんだ
鏡を見るたびに
そこにあるんだ
もうこれは
自分の一部で…

なんかもー
よく
分かんねー

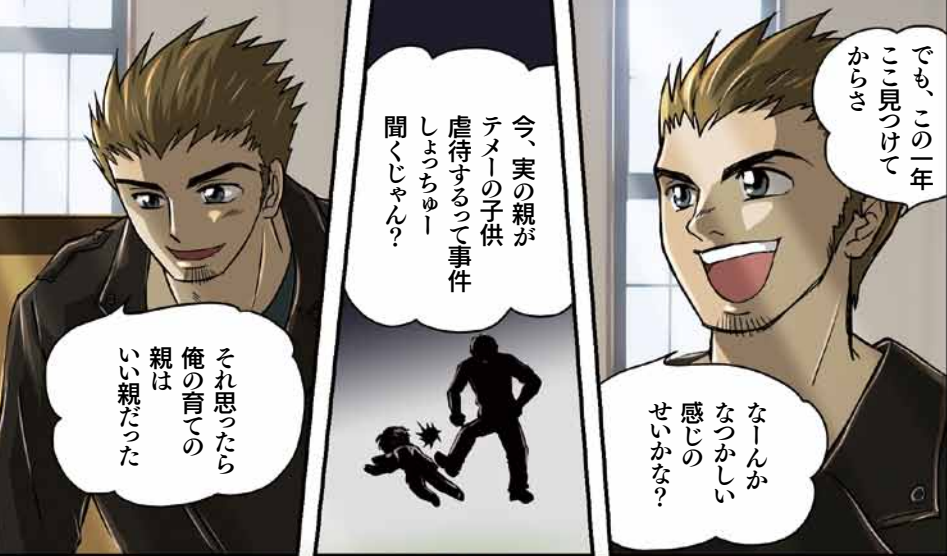


な
なんだよ
間いって!!

そっか!!
覚えてねーなら
しかたねーな!
まあ、あまり
気にしないでくれ!







でも、この二年
ごに見つけて
からさ

今、実の親が
テメーの子供
虐待するって事件
しよっちゅー
聞くじゃん？



それ思ったら
俺の育ての
親は
いい親だった

なーんか
なつかしい
感じの
せいかな？



今思えばさー
楽しかった
なあー…

その教会の
牧師夫婦と
きたら五人も
子供いてよー

みんな養子で
悪ガキ
ばっかで…



デキの悪い
俺を
かわいがって
くれた

びや
おあ
おあ

でも
その
愛情の
源つての
がさ

はつきり
言われた
ように
最近分かる
ように
なったんだ…



びんぼーで
みんなバカだから
いやになって十六で
とび出したんだあー

お前のバカは
そこから
来てるのか…

そうか…



それはただ
ついでにけ
ば
いふ…

自分よりも
ずっとずっと
でかい何かだ



でも意外だな
お前との
付き合いは
そーとー
長いけど

俺ちつとも
そんな事
知らな
かったぞ

今まで
はずかしくて
ずっと誰にも
言わなかつたん
だからよ



俺は子供の
頃からずっと
傷ついて
たんだ…
自分
は
親から
捨てられた
いらぬ子供
なんだって…

自分は誰からも
必要とされてない
愛されること
ない人間だと
考えてた

ドキッ





何よりも
大きいものが
よろこびだ

まだ
見えない
もの…



…



すでに
失ったもの

まだ見て
ないもの
…か

手に
入れたもの



説教
終わり!!

な
んてな



いい女が
いたり
でっけえ
ステーキ
食べたりよ

しあわせは
銀行に
金があったり

ピカピカの
バイク乗ってりや
感じるもん
だろ? いいもん
だけとさ
人生を飾る
うわべだけの
もんさ



よろこびは
終わりのない
しあわせかな
金、女、バイク
食いもの
全部
なくなってもさ
喜びはまだ
残って
いるんだ…



でも
よろこびは
もつといい
もんだ!



今まで
手に入れた
もの

すでに
失った
もの



頭のうずきが
いつまでも消えねー
痛みも…

腹が引きさかれる
ような悲痛な
思いも…

そのでかい
ものなら

受けとめて
くれるって
言うのか…？

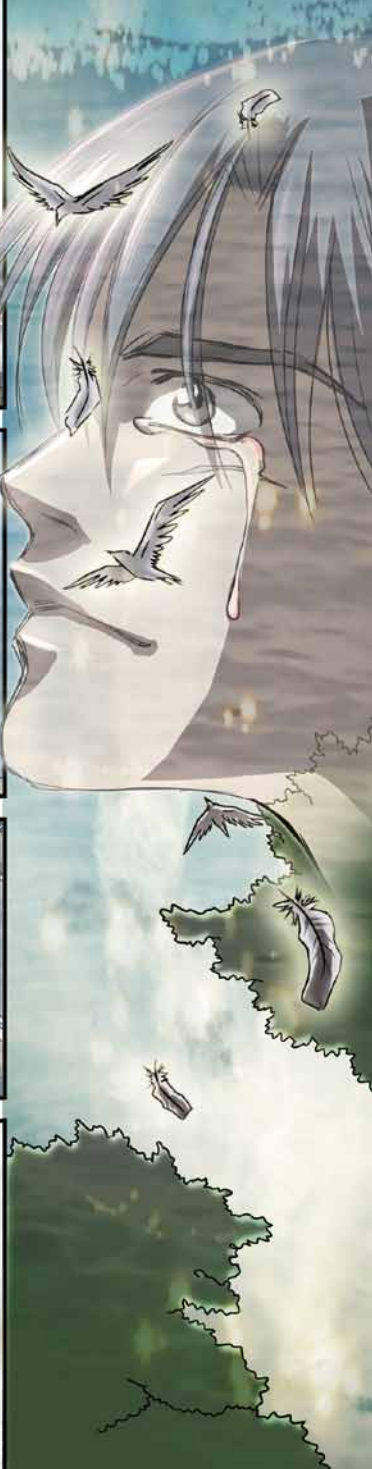
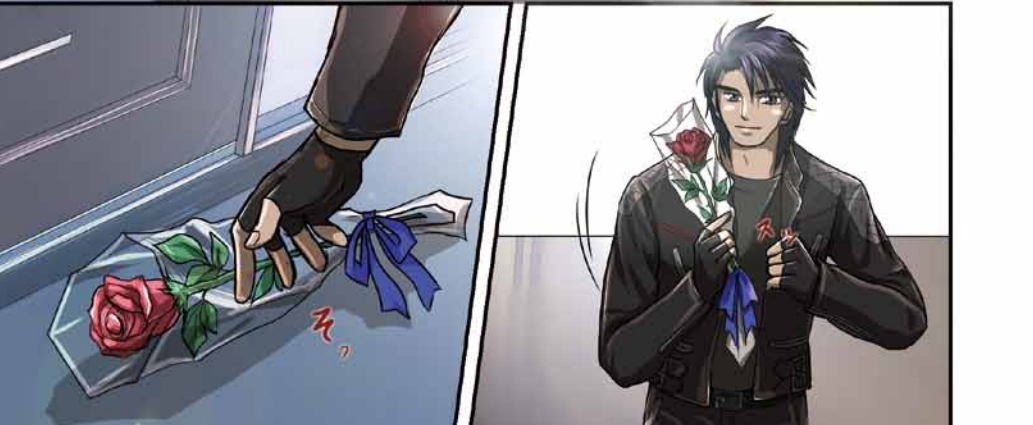
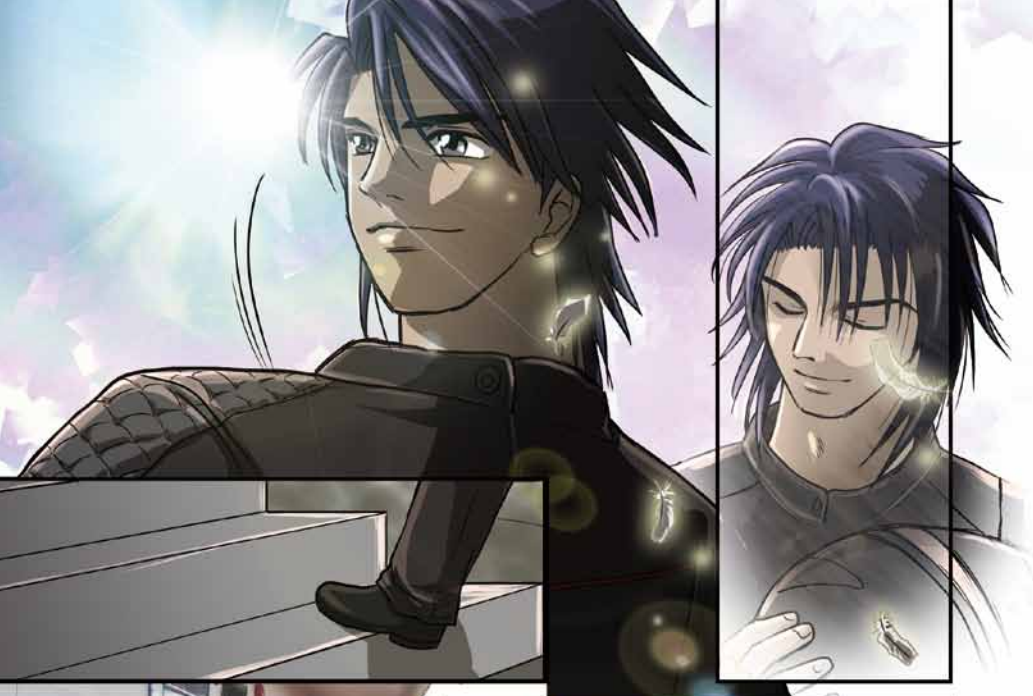


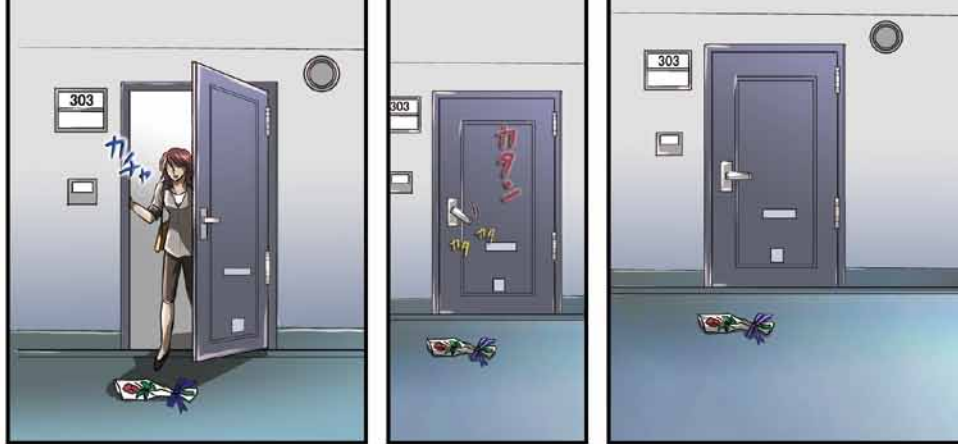
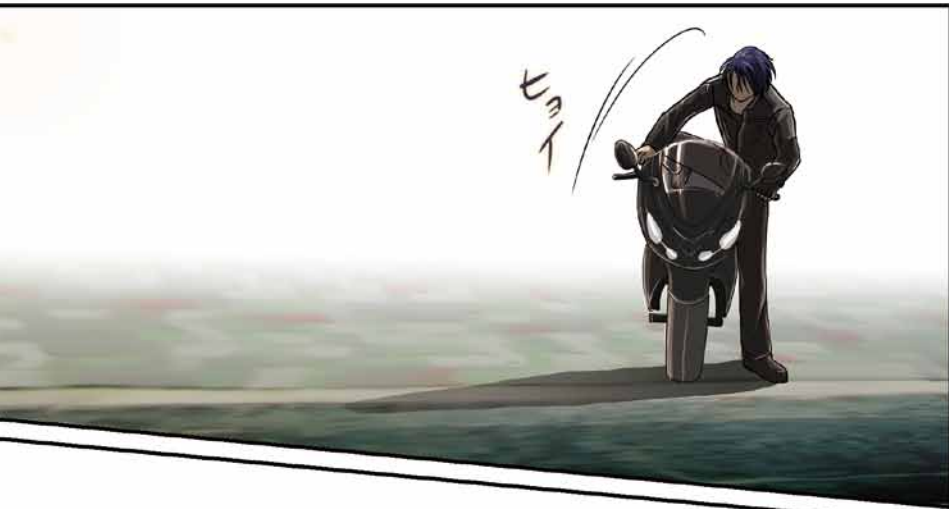
幸せは
分かるけど
よろこびは
知らなかった…

一度も…



俺は自分の苦しみ
ばかりにしぼられて…







苦しみは いつも突然
やってくる

しかしその痛みも
きこえないものだ

永遠に変わらない
何かに
気がついた時

その痛みの
おぼろげな
聞こえ方...



Are you ready to RIDE?

秘密の隠れ家

私には秘密の場所がある。一人きりになって静かに過ごす場所。それは海の近くの丘の上にある。松の木に囲まれた杉の木の古い小屋だ。鷹が悠々と天高く飛んでいる。静かに波の碎ける音が近くに聞こえる。草の上に仰向けに寝ころび、高い枝や青い空を流れる雲を眺める。階段に腰掛け、焼いた魚やさつまいもを食べながら「人生っていいものだな」と思う。

そしてあの恐ろしい津波が起こり、その丘の周囲のみ込み、町々を破壊してしまった。多くの人がすべてのものを失った。けれども私の小屋は持ちこたえた。地震に襲われたが、どうにか今でも古い土台の石の上に建っている。本当は倒れていたはずなのに、まだ建っている。

人生にも地震や津波が襲ってくるから。夢破れ、希望を失い、苦しみから逃げる事ができそうもないから。

ひよっとしたら、あなたの隠れ家は窓の外で静かに雨が降っている喫茶店かもしれない。あるいは太陽が輝き、蝶が飛びかうハーブガーデンだろうか。はたまた芝生にすわって夕日を眺めることのできる丘の上だろうか。それとも雪の舞い散る露天風呂、あるいは色とりどりの熱帯魚が泳ぐ、ヤシの木陰のプライベートビーチだろうか。実在の場所でも、夢の中の場所でもかまわない。人生がどんなに苦しくても、そこに行けば安らげる。

パラダイスに住む

以前、私はパラダイスと呼ばれる地に住んでいた。それはハワイのマウイ島だ。ハワイを夢のような場所だと思っ人も多いだろう。確かにハワイの住民は「マウイノカオイ(マウイが最高)」と言う。ジャングルがあり、目のくらむような海岸ととびきり最高の星空を眺めることができる。

私がそこに初めて行ったのは確か10歳か11歳のころだった。そのときの小屋はもっと大きく感じられた。そのときからほとんど変わっていないのだから、多分私が大きくなっただけだろう。そして、長年私には隠れ家が必要だった。イメージするだけでも、またほんの数分間滞在するだけでもよかった。大都市の電車にもまれながらストレスを溜め込み、布団の上で寝返りを打ちながらそこに行くことを心待ちにする。あの小屋が私のことを待っていると。

おそらく誰もが、そのような場所を必要としている。心からほっとできるような場所を。なぜなら、私たちの

私とその「パラダイス」に住んでいた1年ほどの間に、兄と父、そして親友が次々に亡くなった。

どうしようもなく暗い気持ちのまま、車で学校に通っていたことを覚えている。車の外を眺めると、広大なサトウキビ畑が広がっていた。そして「あそこで横になってそのまま朽ち果ててしまいたい」と思った。パラダイスと呼ばれる所が、そのときの私にとっては地獄だった。

地獄にいるように感じたことがある。君は今、そのように感じているかもしれない。

ケンジのように、もうどうでもいいと思ったり、どうすればいいのかわからなくなったり。

誰もが同じように感じたことがあると思う。人生はときにはつらく、困難を覚えることがある。

そして脱出方法は「ただ



ひとつしかない」と、ケンジのような計画を企てるかもしれない。しかし実際には、「今の状況は変わる」のだ。私も、苦しかった過去から立ち直った。状況は絶対変わるのだ。そのときには、以前より強い自分がかっきりと立っている。

君の状況も変わるのだ。

でもちょっと待って。まだ話は終わっていない。秘密の隠れ家よりもっといいところがある。

パラダイスよりすごいところ、永遠の場所だ。君も心のどこかでそのようなことを願い、信じているかもしれない。やすらぎと喜びが川のように流れているところ。どんなに恐ろしいことも消え去り、夢が鮮やかに色づく場所を。

深い傷

しかし現状を見れば永遠の場所になど、とてもたどり着くことができないように思える。この世界は「お前にはふさわしくない」と語りかける。「意味がない、ただ

何もない、 しかしすべてを持っている

何年も前、友人を亡くした。彼の人生には、普通なら誰もが避けたいと思うようなことばかりだった。生まれつき視力がなく、知的障害を抱え、死に至る病気にかかっていた。微笑みたくなるようなことなどほとんどないように見えた。彼の名前はショータロー。周りの人々は彼のことをショーちゃんと呼んでいた。

毎週日曜日には、教会が礼拝のために借りていた東京上野のビルの屋上で、彼に聖書のストーリーを話した。一緒に歌も歌った。彼は、「主は素晴らしい」という曲が好きだった。私がショータローに教えていたのだが、むしろ彼の方が私にもっと多くのことを教えてくれた。ショータローが持っているものはわずかで、将来に希望が持てるようなものはあまりないように見えたが、それでも彼は、神様は素晴らしいと確信していた。微笑みながらそう言ったのだ。

苦しみに満ちている」人生には価値がないと。周りの人々は「お前には無理、お前にはできない、お前のようなやつでは……」と言う。使えない、イケてない、のろま。せいぜい「並」かそれ以下、「ウザイ」などという箱に分類されてしまう。それとも、「かっこいいイケメン」として頑張るのだろうか？ でも周囲の期待に応えられなくなってしまうたらう。望まない箱に押し込まれてしまったなら、そこから抜け出せるのだろうか？

誰も何らかの理由で傷ついている。それも深く……。君もその傷に苦しめられ、自分がどうにもならない奴隷であるかのように感じるかもしれない。心の傷に翻弄され、まるでいつも重たい石が乗っかっているよう。一晩中葛藤してみても結局傷だけが残る。いやされることはあるのだろうか……



その後、私はアメリカへ引っ越したが、東京に立ち寄りたときに彼の病状が悪化したことを耳にした。そこで、成田空港から飛行機に乗る前に彼のいる病院に見舞に行った。骨と皮だけのようになった彼の体には様々なチューブが繋がれていた。もはや、彼の明るい表情は消え失せ、生きているのがやっとな感じだった。

彼がお気に入りだった、チュルチュルと飲み込めるゼリーのお菓子を買っていた。けれども、もう食べることができないと、彼のお母さんが言った。冗談を言い良く笑った口がもう話をすることすらできなくなっていた。歩くことはおろか、立ち上がることもできず、座ることさえできなかった。まるで彼は壊れた体に閉じ込められ、暗闇につながれているかのように横たわっていた。私は彼に話しかけ、祈った。それはまるで岩の壁に向かっていているようだった。彼のお父さんが彼を抱きかかえ、私が入る隙に腰掛けられるようにしてくれた。私は、指が外側に曲がって固まってしまった彼の手を握り、ゆっくりとあの歌を歌い始めた。「主は素晴らしい。主は素晴らしい。主は素晴らしい、わたしの主。」なんと愚かな歌か、と感じた。こんなにひどいことが起きているの

だから。こんなの、散々だ。どうしてこんなことが起きるんだ。

その後、ご両親がショーターローを車椅子に乗せ、病院の玄関まで来て見送ってくれた。そこを去ろうとしたそのとき、目が見えないショーターローは固まった腕をなんとか私に振ってくれた。私は涙を抑えることができなかつた。ショーターローには何もなかつた。しかし、彼はすべてを持っていった。手に入れたのだ。誰も彼の手から奪い去ることのできない、神からの贈り物を見つけたのだ。私は、盲目の彼の微笑んだ顔を忘れることができない。そして、新たな場所で新品の体をもらって笑っている彼と再び会う日がやってくることを信じている。

止まらないメリューゴーランド

一番大切でかけがえない永遠の方が、君には特別な価値があると言っている。君の心臓が最初の鼓動を始めたときに、彼はそこにいた。君の産声を聞き、君が初めて、もっと別の何かがあると感じているのだ。

私は東京で大勢の学生と会った。彼らはパーティを開いて、ただ楽しくやればそれでいいと思っているようだった。誰だって楽しくやりたいだろう。ばか騒ぎをして、カラオケに行き音量最大でお気に入りの歌を歌ったり、涙が出るほど笑ったり。それはそれで結構楽しかったかも知れない。だけど、人生はそれ以上のものなんだ。

Risk Ride

最高のアドベンチャー

しかし、本物を見いだすとすべてが変わる。人生が本当に大切な価値あるものに向かって突き進んでいくようになる。ほかに比べるものがない唯一の道。確かに将来がどのようなものか、すべてが分かっているわけではない。けれども、君は未来を知っている永遠の存在を知ることから始めるのだ。そこには新たな安らぎがある。不思議な喜びもある。それでもなお涙で頬を濡らすこと



て歩いたのを見、毎年誕生日を祝い、すべての涙を知り、すべての卒業式に出席していた。彼は君のことを、醜い部分も含めて、君自身よりも知っている。それでもなお彼は、君を愛さずにはいられない。メチャクチャでうそみたいな話だが、彼にとつて

君はスペシャルな存在だ。彼は君にすべてをささげ、その人生を血に染めてまでも君を取り戻そうとした。悲劇的なことに、多くの人々は人生の意味を分からずに日々を送っている。苦しんで、深い孤独に陥ったり、何かを達成しようとしてもがいたり、楽しいことで気を紛らわそうとしたりする。何かに挑戦したり、目標を作ってみたりしながら、でも結局のところ何も見いだせない。

彼らは人生の意味を深く考えないようにして、人生とはこんなものだと言いつつ聞かせる。しかし、心の奥にあるかも知れない。でも大丈夫。君は進んでいくことができるから。

もし、星を空に散らばせ、宇宙を手の中に収める存在がいるのなら、目を留めてみる価値があると思わない？

もし、その方が君のことを愛しているのなら、君が生まれる前から愛しているのなら、そしてそのために十字架の上で血に染まったのなら、その愛は想像を絶するものだ。

そのような愛こそが、まさに君が求めてきたものかもしれない。もし、君のすべてを知った上でなお血を流してくれる神ならその神について知ってみたいと思わないか？

彼は遠くない。すぐ近くですつと待っていた。君を最高の旅に連れていくこと。

乗ってみない？ Risk Ride... 最高のアドベンチャー





[漫画家]
ケリー篠沢

漫画宣教師。愛知県豊田市生まれ。1990年集英社りぼん漫画大賞SB賞受賞。その後プロデビュー。

2004年6月アメリカ留学中、クリスチャンのルームメイトをきっかけにキリストに出会い、NYマンハッタンにある日米合同教会JAUCで受洗。代表作「MANGA メサイア」(NEXT発行)は、世界23ヶ国に翻訳されている。2010年2月フランスALBUMS PRIMES 2010にて漫画大賞受賞。

制作2年の時を経て

リスクライドの漫画化のお話を頂いたのは、かれこれ2年以上前でした。ドクター・美湖と初めてお会いした時、彼は日本の多くの人々が失望し、生きる意味を見いだせないまま暗闇をさまよっていることを嘆いていました。少しでも彼らの心に手を差し伸べたい。そんな想いで生まれたのが、「リスクライド」でした。

私自身は、免許がないため、バイクにまたがり走るといふスリルは味わったことはありませんが、アルペンスキーでレースに参加した経験があるので(無理をして救急車に運ばれた経験も)、スピードに対する恐怖とスリルは多少分かるつもりで描かせていただきました。スピードに身を任せて自分を追い込むケンジの姿も、完全に自分に重ね合わせていました。かきう私も過去に重い鬱を患い、何度もリストカットをしては病院に運ばれる、ということを繰り返していたのです。

鬱を乗り越えようと始めたのがアルペンスキーでした。しかし、どれだけ人より腕を上げても、

死ぬ気で谷や霧の中に突っ込み、そのスリルで苦しみから逃れようとしても、私の心はふとしたすきに、簡単に暗闇に引き込まれ、また鬱状態で引きこもってしまうのでした。

だからケンジの気持ちがよく分かる！そして同時に福島津波のたった二週間後に最愛の息子を亡くすという経験を経て、大切なものを失ったケンジの心の中の叫びと、断末魔の苦しみがよく分かるのです。この作品の作業中、私もケンジのように「腹が引き裂かれるような苦しみ」の中にいました。そして、ケンジのようにでっかい何かを……再び出会うことができたのです。

昔も今も、永遠に変わることのないゆるがぬ愛！そのでっかいものは暖かく、傷ついています。そしてそれは、今私の人生の重荷を一緒に持って歩んでくれているのです。

その声は気がつかないと言き流してしまうかもしれませんが。しかし、苦しい時、心病める時、耳を澄ませてみてください。ケンジの心に鳴り響いたあの鐘の音が、求める者の心に必ず聞こえてくるはずなのですから。

バイクとラーメン、そしてマンガ

私は東京で育った。仮面ライダーとガッチャマンの世代だ。お小遣いがあればマンガを買うかラーメンを食べるかのどちらかだった。後でハワイの友だちが私のことを玉子のようだと言っていた。外側は白(白人)で、内側は黄色い(日本人)というわけだ。そこで私は言った。君らはバナナじゃないか、世の中見た目じゃわからないぞ、と。とにかく「リスクライド」は私の人生の一部。仮面ライダーのバイクと旨いラーメン、そしてマンガだ。

それから別の部分もある。大学を終え、ホテルから東京に戻ってきたときのこと。色彩豊かなハワイの空港で友達と別れのハグとキスをして、色の無い灰色の1月の東京にやってきた。この地球最大の都市で寒さと孤独を身にしてみて体験した。何百万人もの人が周りにいるのに孤独だった。

この物語の中には、私以外の人のストーリーも

ある。あるとき、私はテレビ局のプロデューサーと山形県の温泉につかっていた。ストレスから解放されるひととき(私は温泉が大のお気に入りだ)。静かにお湯にひたっていると彼が話し始めた。拒絶され、孤独の人生を引きずっていたことを。まさにケンジのストーリーだ。

あるときから私は、マンガが孤独を解放してくれるのではないかと考え始めた。リラックスして解放され、話を始めることができれば……温泉のように。君は独りではない、一緒にいるのだと。

おそらく私たち自身の中には、ケンジとシンのどちらの面もある。そして毎日、そのどちらかを自分自身で選んでいる。いやなことは起こる。その状況がますます悪化するかもしれない。そこで、ケンジかシンを選ぶ。自分の世界を自分で築くのだ。

とりあえず、海辺をバイクで飛ばしてみようかな。風を切つて。あなたにも、どこかで会えるといいな！



[原作者]
Dr. アンディ
美湖

生活拠点を日本とアメリカにおく、いわゆる「サード・カルチャー・キッド」(親とは違う文化で育った子供)である。ミーコという名の起源はハンガリーにあるが、日本では「美湖」という漢字表記を使っている。著作物は海外でも出版され、カウンセリングでも用いられている。また、日本で働くカウンセラーの養成にも力をいれている。

フリーアニメーションWEBにて公開中!

My Last Day

「最後の日」

— 人類の運命を変えた出来事 —



<http://www.mylastday.jp/>

検索 

イエスと同じ十字架刑を受けた
四人の目を通して描かれるストーリー

バリー・クック脚本 (ディズニー映画
『ムーラン』監督)、スタジオ 4°C 製作、
© INSPIRATIONAL FILMS 編集

携帯・スマートフォンの方は
こちらから 

※一部対応していない
機種がございます。

